

東京 23 区におけるギャラリー利用に関する研究

銀座エリアと青山周辺エリアを中心として

5086 数田宗房

指導教員 助教 佐藤慎也

1. はじめに

「アートと建築」というくくりでテーマを考えた時、大規模で華のあるプロジェクトや著名な施設について調べるよりも、プロ・アマを問わず、作品に向かい合っている作家個人に繋がっていくような研究をしたいという個人的な思いが強かった。それは、自分自身が所属する大学のサークルで他大学の学生などと作品の展示会を開くような機会が度々あったため、4年間の集大成になる研究の題材もそのあたりに触れるものにしたという考えがあったのだろう。そこで、一般の人がある程度の日数、決まった料金を払うことで利用できる「貸しギャラリー」をテーマとして採用し、調査研究をすすめていくことにした。

2. 社会的背景

日本国内における貸し画廊や貸しギャラリー(以下「ギャラリー」で統一)の起源は、1940年代にまでさかのぼると言われる^(注1)。決められた料金を払う事で一定期間スペースを借り受けるタイプのギャラリーは日本独特のもので、欧米などでは作家個人や団体が自主的に運営するタイプの「自主ギャラリー」が多い。また、一般的な美術館が大きな作家団体や新聞社などにスペースを提供することが多いのに対し、ギャラリーは個人の作家に利用しやすい賃料で提供していることが多い。そういった背景があるため、日本にはアマチュアレベルで創作活動を行い、それを発表するのに適した土壌がすでに出来上がっていると考えられることもできるだろう。また、ギャラリーでは入場料金を取らないことが一般的であるため、来場者の立場からしても敷居は低いはずである。だが、現実問題として、一般人の生活にギャラリーの存在が浸透しているかという点、ほとんど浸透していないというのが個人的な感覚だ。また、既往研究については、ギャラリーにおける監視員の問題などを扱った論文は見つかったものの、ギャラリー自体を研究したものに関しては見当たらなかった。

3. 研究の目的と意義

本研究では、インターネットなどを用いてギャラリーの情報を集めると同時に、実際にギャラリーに足を運び、運営者や利用者ヒアリング調査を行う。立地、設備、料金、利用者層といった基本的な情報を集め、ギャラリーの方向性、各要素がどのような特性を持っているのか研究を行う。そこから派生的に、ギャラリーと作家の関係性や、ギャラリーが一般層にまで浸透していない理由、どのような要素が敷居を上げているのかといった点について考察する。最終的には、現時点における改善点を洗い出し、より芸術活動を一般に浸透させるための将来的な展望といったものにまで踏み込む。

4. 調査対象と調査内容

本論における「ギャラリー」の定義を、「①運営元の公

共、民間は問わず ②プロ、アマの隔てなく ③美術作品や工芸品などの展示空間として ④決められた料金を払う事で一定の期間利用できる貸しスペース」と定める。ギャラリー側で作品を選別し展示を行う企画ギャラリーや、特定の団体が運営・支援するような自主ギャラリーなどは含めない。

調査対象としては、サンプル数が潤沢であること、実際に足を運ぶことが容易であること、アートシーンの動向に時代性が反映されやすいことなどの理由から東京 23 区に存在するギャラリーに絞ることとする。また、23 区内全体を満遍なく調べるより、ある程度ギャラリーが多く存在する地域を絞って研究を進めたほうが有益なデータが出ると判断したため、地域ごとのギャラリー数の偏差を調べ、そのうちの上位いくつかの地域について調査を行うこととする。

調査する内容は以下の通り。

- ・立地：地域ごとの分布の偏りを調べるため
- ・開業年：地域ごとの開業年の偏り、開業年とその他の要素との関連性を調べるため
- ・室内写真：室内の雰囲気を知るため
- ・平面図：ギャラリーとしての機能面を調べるため
- ・間取りデータ：天井高、延床面積、壁面長と料金などの関係を調べるため
- ・備品と設備：各設備と料金などの相互関係を調べるため
- ・料金体系：各要素がどのような形で料金に反映されているかを調べるため

これらのデータから総合的に、地域ごとの傾向と偏差や、設備や料金、空間の大きさの与える影響などを考察する。また、実地調査を行った上で感じた所感やヒアリングによる情報も加えている。

5. インターネットによる調査

5-1. 23 区内におけるギャラリーの分布

23 区内に存在するギャラリー数は表 1 の通りである。

名称	数	名称	数
千代田	39	江東区	4
中央区	219	豊島区	8
港区	68	杉並区	15
新宿区	45	北区	1
台東区	5	荒川区	0
文京区	7	板橋区	2
墨田区	1	足立区	2
品川区	8	練馬区	2
大田区	2	葛飾区	2
目黒区	15	江戸川区	0
世田谷区	28	渋谷区	77
中野区	6		

表 1 23 区内のギャラリーの数

中央区が圧倒的な数を誇り、次いで千代田区、港区、新宿区、渋谷区などが続く。中央区にはギャラリーのメッカとも言える銀座があり、銀座のギャラリーだけで百を超えることが分かった。渋谷区、港区に関しては、青山や神宮前と言ったハイソサエティな地域に多くのギャラリーが存在した。

そこで本論では、

1. 日本最大級のギャラリー数を誇り、歴史もある「銀座エリア」
2. 流行の先端を行き、アートとの結びつきも強い「青山周辺エリア」(原宿、青山、神宮前など)

の二箇所について重点的に調査を行う。また、それらとの比較要素として、「表1」の中でギャラリー数が30を下回る地域を

3. 「その他エリア」

とし、以上の3エリアについて調査を進めていった。この3エリアに関して、ギャラリーを紹介するウェブサイト(注2)の中からギャラリー自体のウェブサイトを保有しているものを調査対象としている。その結果、銀座エリアでは30、青山周辺エリアでは35、その他エリアでは33のサンプルが採取できた。

5-3. 設置階

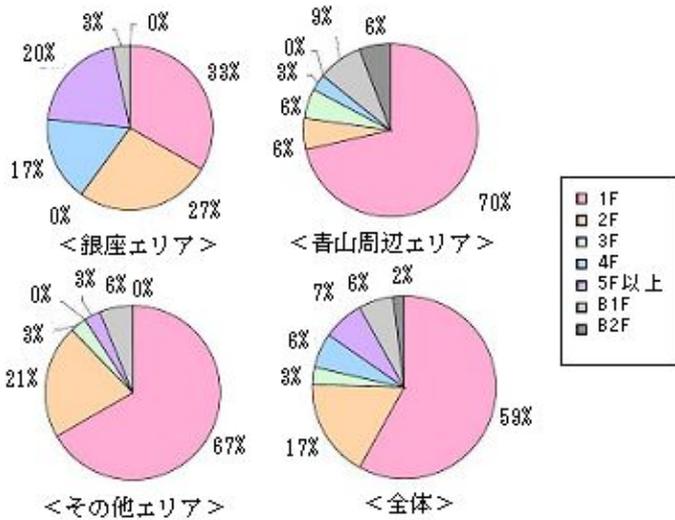


図1 エリアごとの設置階

全体のデータを見ると、半数以上のギャラリーが1階に設置されているという結果が導き出された。地域別のデータでは、銀座エリアは全ての階に幅広く分布しているのに対し、青山周辺エリアとその他エリアに関しては、70%ものギャラリーが1階に設置されているという結果が出た。

5-3. 天井高

	銀座エリア	青山周辺エリア	その他エリア	全体
天井高(mm)	2579	2856	2711	2710

表2 天井高の平均(mm)

青山周辺エリアやその他エリアのほうが大きな数値が出ているのは、平屋や地階設置などで天井高が高く取れるギャラリーが多いためではないかと考えられる。

この項目に関しては、美術館などの天井高が一般的に4m前後で推移しているものが多い事から考えると、いささか低い数字と言えるかもしれない。その点は、テナント

として間借りする事の多いギャラリーの弱点ではないだろうか。

5-4. 延床面積

	銀座	青山周辺	その他	全体
延床面積(m ²)	40.65	40.11	40.57	39.80

表3 延床面積の平均(m²)

エリアごとの平均を算出してみると、どのエリアもほぼ40m²と、同じ数値であった。その内訳を10m²刻みで分類してみると、次のような結果になった。

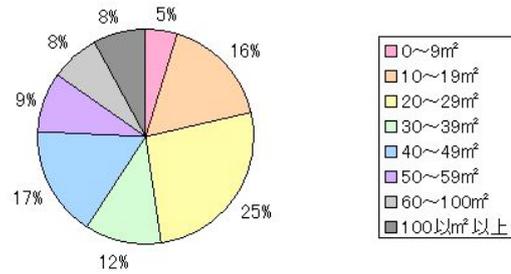


図2 ギャラリーの延床面積

ほぼ3/4のギャラリーの延床面積が50m²以下であり、半分近くがワンルームマンション一部屋程度のスペースで運営されていることがわかる。コンビニエンスストアの延床面積が平均して150m²ほどであることから考えても、ギャラリーが非常に小さなスペースでも実現可能な事がわかる。

5-5. 壁面長

	銀座エリア	青山周辺エリア	その他エリア	全体
全体	23935	21257	19931	21772
1Fに設置	19803	17704	19001	18650
1F以外に設置	25528	31607	25570	25570

表4 壁面長の平均(mm)

延床面積に関しては大きな違いは見られなかったが、壁面長に関しては数字として違いがあらわれた。一見して、1階に設置されたギャラリーと1階以外に設置されたギャラリーで大きな違いが出ていることが分かる。これは、通りに面している面をガラス張りにしているギャラリーが多いためだろう。それによりギャラリーの敷居を下げ展示作品をアピールすることができるが、その代わりに壁面長が犠牲になっている。

地域ごとの数値を見てもその傾向は変わらないが、銀座は、ギャラリーの規模にたいして他エリアよりも多くの作品が展示できることがわかる。これは、作品の販売を目的にするプロ作家にとっては魅力的なポイントだろう。青山周辺エリアに関しては、1Fに設置されたギャラリーが多いため、結果的に数値が低くなっている。その他エリアに関しては、青山と同じく1階に置かれたギャラリーが多いためこのような数値になっている。その他エリアは銀座や青山周辺と比べてカフェと併設のギャラリーが多いため壁面長を多く取っていないギャラリーも多く、それが数値に影響を与えているという事も考えられる。

次に、壁面長から展示できる作品の数を考察する。それぞれ、展示作品の間隔を500mm取ったと考える場合、単純計算で表5に示した点数の作品を展示できることになる。なお、キャンバスのサイズは5号(35.0×27.3)、12号(60.6×50)、50号(116.7×90.9)の3種類を想定し、肖像画用のF規格を基準とした。

	銀座エリア	青山周辺エリア	その他エリア
5号キャンバス	31	27	25
12号キャンバス	24	21	19
50号キャンバス	17	15	14

表5 展示可能な作品点数

この結果と設置階の項目から得られたデータを総合すると、「設置階が高く敷居は高いものの多くの作品が置ける銀座」と、「設置階が低く敷居は低いものの作品数が若干犠牲になる青山周辺」といった形で対照的な性質が生まれていると言える。

5-6. 利用料金

	銀座エリア	青山周辺エリア	その他エリア	全体
全体	¥39,367	¥30,248	¥16,801	¥28,381
1Fに設置	¥37,353	¥28,329	¥16,233	¥25,027
1F以外に設置	¥40,273	¥33,777	¥17,939	¥33,075

表6 利用料金の平均(一日あたり)

各エリアを比較すると、銀座エリア、青山周辺エリア、その他エリアの順に料金が安くなっていることがわかる。さらに、1階に設置されているギャラリーと1階以外に設置されているギャラリーを比較すると、1階に設置されたギャラリーのほうが1階以外に設置されたギャラリーよりも利用料金が安いという結果が出た。1階に設置されれば来場者が入りやすくギャラリーとしての価値が高まると考えられるが、これは予想外の結果であった。これは、壁面長の項目で触れた「1階に設置されたギャラリーのほうが1階以外に設置されたギャラリーよりも壁面長が短い傾向がある」という特徴に原因があると見るべきだろう。すなわち、ギャラリーの利用料金を決める一番の要因は、壁面長の長さにかかると言うことができるだろう。

次に、作品一点を展示するのに必要な値段を算出する。ここで展示する作品のサイズと間隔は壁面長の項目で扱ったものと同様とする。

	銀座エリア	青山周辺エリア	その他エリア	全体
5号キャンバス	¥1,429	¥1,259	¥742	¥1,147
12号キャンバス	¥1,849	¥1,629	¥960	¥1,484
50号キャンバス	¥2,605	¥2,295	¥1,353	¥2,091

表7 壁面長に対する利用料金

この値段が、それぞれ作品一点を一日展示する際に発生する料金の平均となる。

5-7. 平面図から見るギャラリーの特徴

箱型ないし回廊型のギャラリーがほとんどであり、例外はあるもののギャラリーのみに見られる特徴的な形式というものは見出すことが出来なかった。

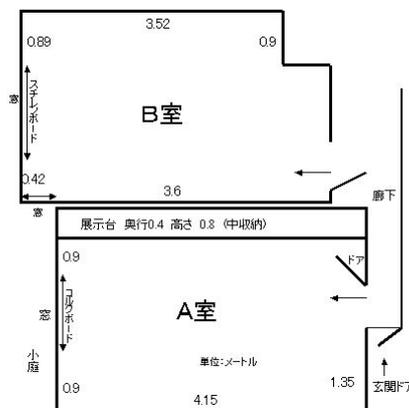


図3 箱型ギャラリーの一例(注3)

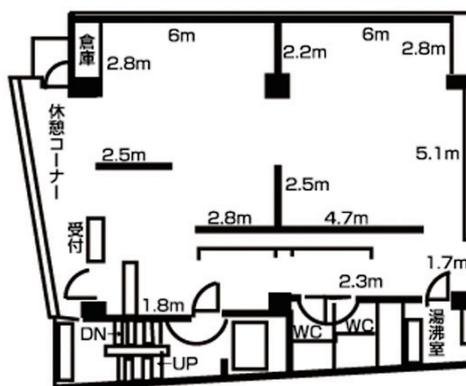


図4 回廊型ギャラリーの一例(注4)

しかし、通常であれば平面計画上の欠点として切り捨てられてしまうような要素を効果的に利用することもできるという柔軟性の高さは、ギャラリーならではのものであると言えるだろう。



図5 平面計画上の欠点を利用している例(注5)

6. 実地調査による調査結果

6-1. 銀座エリア

銀座地区は、呉服屋などに代表されるように商人の街であったため、古くから画商が多く生活しており、その流れで古くからギャラリーがある土地であったようだ。90年代になってからは経済の悪化などもあり、大手のギャラリーが撤退するような事態も多かったようだが、街自体に歴史と風格があるため、未だにこの土地を活動の拠点とするプロ作家は依然として多い。

6-2. 青山周辺エリア

青山周辺エリアは、バブル中に発展していった土地であるようだ。その背景には、バブル期の広告業界への資金の流入に、デザイン事務所などが多かった青山周辺エリアという土地が敏感に反応したという経緯がある。半ば人材発掘的な目的で、いつくものギャラリーが開業した。ただし、古くから経営されているギャラリーも多い。

このエリアは、プロはもとより学生やアマチュアの利用者が多いということも大きな特徴であるようだ。

7. 考察

7-1. 銀座エリアのギャラリーについて

研究をはじめめる前に抱いていた「敷居が高い」というイメージを裏付けるような結果があらわれた。利用料金も他のエリアに比べて高く、設置階も高いために気軽に入りにくい雰囲気もあるだろう。展示作家もプロが多く、学生の展示なども他エリアに比べると少なかったように思える。また銀座エリアには歴史の古いギャラリーが多い。だが、近年は国内景気の悪化などの影響で廃業や移転が増えてきているという。たしかに調査したかぎりではここ数年のあいだに出来たと思われる新しいギャラリーはあまり見かけなかった。やはり「銀座」というブランドが、ある種の品格を与えると同時に敷居の高さも付加してしまっているのだろう。ただ、その敷居の高さがある種の「格」を生み出しているのだという事もわかった。

銀座のギャラリーは、そもそものギャラリーの存在意義である「作品を展示する」という根源的な目的をそのまま貫いているところが多いように思えた。それを裏付けるように、他地域より展示可能面積が大きく、より多くの作品が展示できるという結果が出ている。その歴史ゆえにアートビジネスとしての側面が大きくなりすぎている感はあるものの、「自分が良いと思ったものにお金を出す」というアートに対するシンプルな価値観が根付いているのが銀座という土地だと言えるだろう。

7-2. 青山周辺エリアのギャラリーについて

青山エリアの特徴としては、「他の事業+ギャラリー」という形で他の施設に併設されているギャラリーが多いことが挙げられるだろう。アート作品を置くことで本業に何かしらのプラス要素を持たせ、集客力やブランドイメージを上昇させ、新しいコミュニケーションを生み出そうという意図が強い。これは、青山周辺エリアがカルチャーの発信地的な性格のある土地で、ギャラリーもそのカルチャーを形作るための手段のひとつでしかないということなのだろう。この地域のギャラリーの壁面長が銀座よりも短くなっているのは、作品数を多く展示するよりも、空間に余裕を持たせある種の「雰囲気」を生み出す事に主眼が置かれているからかもしれない。天井高の高さも、そういった意図のあらわれと推測することができる。

一般的に他地域では特定のジャンルに偏ったギャラリーはあまり無いが、イラストに特化したギャラリーが多く存在しているということも青山周辺エリアの大きな特徴だ。作品を展示するだけに留まらず、過去に展示を行った作家のポートフォリオや作品集を保管しアーカイブ化するなどのアフターケア体制を整え、仕事の斡旋や仲介まで行い、イラストレーターの活動を多角的に支援している。そういったギャラリーはほとんど1980年代中盤～後半にかけて設立しており、まさにバブル期と共に成長してきた

青山という土地を象徴するようなギャラリー群と言える。

7-3. その他エリアのギャラリーについて

ギャラリーが数多く存在する銀座や青山周辺とは違い、値段の面で非常にリーズナブルに設定されている点の特徴だろう。また、カフェなどの一部分を展示スペースとして利用しているギャラリーも多く、作家にとっては利用しやすく、来場者にとっては気軽に入れるような土壌ができているといえるだろう。地域に根ざしたローカルな活動を行っているギャラリーも多い。

調査したギャラリーのうち八割以上がここ五年以内に開業したギャラリーであることも目につく。景気の後退で銀座などの主流地区から離れるギャラリーが増えているという話を裏付ける結果となった。だが、閉鎖してしまったギャラリーも多く、活発な新陳代謝が行われていると見られることもできる。それに関しては、良い面も悪い面も等しくあるだろう。

7-3. ギャラリーを一般に浸透させるには

ひとつは、ギャラリーの「名所化」だろう。これは、銀座エリアの奥野ビル、青山周辺エリアのデザインフェスタギャラリー、同潤会ギャラリーなどに顕著だ。とくにデザインフェスタギャラリーは立地、外観ともにランドマークとしてふさわしい存在感を持っており、作家、来場者ともに敷居の低さを実感しているようだ。

もうひとつは、ギャラリーの省スペース性を活かした展開だ。ワンルームマンション以下の敷地で十分にその機能を満たせるギャラリーという施設の有用性が周知されれば、新しいギャラリーのかたちが生まれてくるかもしれない。現在でも地下通路を公共のギャラリーとして利用している例が多く見られている。

8. 結論

本研究を書き進めるにあたり、ギャラリー自体を建築として論じている論文や文献がほとんどない事に驚かされた。それは建築として生真面目に論じるほどの特性が無いということなのかもしれないが、ひとつひとつにはわかりやすい特徴は無くとも、地域単位の視点で見ると驚くほど素直な結果が出てくる事に驚かされる事が多かった。アートを「目的」とする銀座、アートを「手段」とする青山。実に好対照であり、その対比がそのままアートと作家、アートと受け手の関係に重なるように思える。

【脚注】

1. 「名古屋画廊」ウェブサイト「名古屋画廊の60年」(<http://www.nagoyagallery.co.jp/>)。
2. 「かりるなら.com」(<http://www.karirunara.com/>)、「貸画廊情報センター」(<http://www.g-station.co.jp/kashigarou/>)、「アートPRサイトcaféボヤージュ 貸しギャラリーナビ」(<http://www.cafevoyage.net/>)の三つのウェブサイトに記載されている物件に加え、検索サイトにて「地名+ギャラリー」で検索を行った。
3. 「貸画廊情報センター」ウェブサイト「ギャラリーSPACEKIDS」より(<http://www.g-station.co.jp/>)。
4. 「アートスペースリビーナ」ウェブサイト「利用上の注意」より(<http://www.ryabina.com/>)。
5. 「貸画廊情報センター」ウェブサイト「アートスペース泉」より(<http://www.g-station.co.jp/>)。